随想

「坂の上の雲」と日本人

阿部敏勝（会員）

一、はじめに

バブル崩壊以来日本中に漂っている「閉塞感」を打破のため（？）凛とした日本精神を再現しようという司馬遼太郎原作のグランドテレビ「坂の上の雲」（ＮＨＫの巨大な予算によるロングラン番組という意味で偉大かどうかは後述します）そのＰＲの為のシンポジウム（二月一三日、日比谷公会堂「坂の上の雲と日露戦争」パネリスト篠田正浩、黒鉄ヒロシ、松本健一、加藤陽子、司会古屋ＮＨＫアナ）や週刊誌の買い切りによるシンポジウムの紹介（週刊朝日三月十二日号、全六頁）「坂の上の雲が描いた凛とした日本人の精神」が実施されました。

折しも八月に満百年を迎える「日韓併合」メモリアルへの対応を含めて「御維新以来の日本人の精神構造を探る記述や議論」が盛んになって居りますのでこの機会に首題に関する本年前半の総括をしたいと思います。

二、「坂の上の雲」を批判する文献

司馬遼太郎原作の「坂の上の雲」の主役は陸軍騎兵将校の秋山好古と海軍参謀の秋山眞之の兄弟、良家に育ち外国勤務も経験した美丈夫、日露戦争では中堅士官として勲功を立てる。副役の正岡子規も歌人で国際通、この三人を中心に「聖戦日露戦争の意義」が語られます。併し戦場の悲惨さ、下級兵士並びにその家族の苦衷などは語られる事はありません。しかも軍備拡張のために「飢餓予算」を組んだ「政府に対し当時の国民は何の不満もなかった」と記述して居ります。

これに対して岩波書店刊行の「坂の上の雲と司馬史観」の著者で一橋大学名誉教授の中村正則氏は「司馬遼太郎は小説家。歴史家がフイクション作家の批判するのは筋違いとの説もあるが、圧倒的な影響力を持つ司馬氏の場合は別（出版元によれば総発行部数一、八〇

〇万部）しかも同氏自身が「坂の上の雲」の殆どを事実に基づいて書いている」と言っている以上はっきりさせて貰わなければならない。と言っておられます。（一月十七日附毎日新聞・「歴史家からの異議申し立て」又長崎平和資料館の理事長である高實康稔氏は誤った司馬史観が闊歩しているのは吉田松陰（彼はカムサツカ、オホーツクを奪い、琉球を諭して朝鮮を責め（攻め）質を入れ貢を奉ること古盛時の如くし、北は満州の地を割き、南は台湾、ルソン諸島を収め、しだいに進取の勢いを示し、然る後、民を愛し、士を養い・・・とまるで昭和の日本を見透かした様な事を記しています。）や福沢諭吉の「朝鮮は固より論ずるに足らず、我目ざす当の敵は支那なるが故に、「先ず一隊の兵を派して朝鮮京城の支那兵をみな殺しにし、我兵は海陸大挙して支那に進入し、直ちに北京城を陥れ、成功疑いなしと断ずべし」とこれ亦「日韓併合」時の日本軍の行動を示唆した論説」を痛烈に批判し、「日本の侵略性は明治維新以来のもの」と喝破しておられます。（九条連ニュース三月二〇日附第一八三号）

三、「日韓併合」を批判する講演会

二月十一日、日本橋公会堂で千葉大学教授の趙景達氏が朝鮮民族の立場から見た日本の「国体思想」「大家族国家観」「明治憲法」「韓国の併合とその論理」「皇民化政策」等々について講演をされました（月刊「憲法運動」五月号に全文が掲載されています）

又四月三日には千駄ヶ谷区民会館で名古屋大学名誉教授の安川寿之助氏が三時間に亘り膨大な資料を駆使して「大逆事件、韓国併合」百年と「坂の上の雲」について講演されました。この中で　同氏は「明治日本の思想家福沢諭吉は「人の上に人をつくらず」等で知られているがその実体は国家主義者であり、大正、昭和の丸山真男、家永三郎、加藤周一などに引き継がれ司馬遼太郎の「坂の上の雲」になったと語られ満場の注目を浴びました。（不戦兵士・市民の会ホーム頁並びに広報誌「不戦」に掲載。

四、「日韓併合」「日韓関係」に関する世論調査の結果

四月初旬読売新聞社と韓国日報社が共同して世論調査を行いました。その結果の概略を記します。（四月十七日附読売新聞）

（1）日韓併合について

己むを得なかった　　日本四四％

そうは思わない　韓国五四％

（2）日本の植民地支配について

充分に反省いている　日本四一％

そうは思わない　韓国九二％

（3）日本の歴史教科書について

韓国の抗議はおかしい　日本四八％

韓国の抗議は当然　韓国七一％

）

五、日韓有識者による第二期歴史共同研究の結果

従軍慰安婦などの侵略戦争をめぐる日本の教科書の記述や韓国の歴史教育について双方から批判を展開、互いの歴史認識を研究する難しさを改めて印象づけられました、今後の研究継続を疑問視する声もあります。（三月二四日附朝日新聞）

六、結論

以上を通じて痛感されるのは「坂の上の雲」に代表される日本人（加害者側）の思考の甘さです。伊藤博文を再び英雄視する出版（知の政治家、初代首相、初代朝鮮総監、近代日本を創った人として賞揚、中公新書四月新刊）ひとつ取っても幕末、尊攘運動の中で吉田松陰らが確立したいわゆる日本國体思想（万世一系の天皇が連綿と支配する清浄な満邦無比の神聖な國＝日本）が「明治憲法」や「教育勅語」になり、これを福沢諭吉らの思想家が醸成した「日本式ナショナリズム」が今日の日本人にも伝承されているのです。「坂の上の雲」が賞揚する「明治は良かった」はその復活を狙ったプロパガンダと言っても過言ではありません。

（以上）

資料　〈日韓併合を巡る主な出来ごと〉

一八七三年　西郷、板垣らによる、征韓論

一八九五年　日本人グループの王宮襲撃、閔妃暗殺

一九〇四年　朝鮮半島の利害巡り日露が対立、開戦

一九〇五年　日本勝利、第2時日韓協約で韓国を保護国化

一九〇七年　安重根初代韓国総監（伊藤博文）を射殺

一九一〇年　日韓併合条約調印、朝鮮総監府設置